KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

北越雪譜 全

ル 4
3176

ル24 信
2176

庚申新梓

一名 咤咤羅伊加 噠呂津古記行

北蝦夷餘誌

多氣志樓藏版

奇文珍書樓主人

凡例

榮濱物本先生嚮ニ彼地ニ至リ幾クシエレヨダヒヨリ シユシユヤの山を踰ヘ渡リて東岸ナイブツに出テ裏トツの嶺を探ぶ唐太日記てふ書の其奥ヨロツコ タライカの久さらをあ情の移り自ら両辰千役の紀行の中よりも抜萃して シラヽヨロツコ冊を求めトツを載ヨロツコタライカの行廿余日を記し一巻とし 先生のこゝ及ぶさぶりを次ぎ出るものや書標を閲者の僂よりぶんをもとめ 余サケ魚を大發華魚 茴マス魚を小發華魚 又世間の識る魴 鰆 松魚を用ゆるとも亦非ざれば通し易き依 鮭を用ひ

又青奥をも鰍の和字かゝるゝ所あれども是を用ひ書のかゝ樹て草木魚名の毎しやゝゝ字を用ひ

きゝ海中圖画を加へゝゝ拔の筆の及ゝ所を知ほしめんゝ為

又器戦家家ゝ耶風をを辨へまんゝを欲ゝゝの意ゝ

世書ゝ尾の類ゝゝ余函館府より丙辰の紀行三十余

巻の中より抽摘ゝゝ微細をきまんと書ゝ人今

世巻を金閣かまゝ乙卯年をゝ安政七庚申の仲春唐太り記

刻版ゝの日於江戸深川仮寓擬の迄

松浦弁四郎徒

北蝦夷餘誌

一名 吃羅伊加 噶呂律古 記行

伊勢 松浦竹四郎 著

信夫恕軒翁紀念 大正三年四月 信夫淳平氏寄贈

安政丙辰の春余太田某と同り隊長白山君に扈従し蝦夷の西岸を巡視し五月下旬ソウヤ地名より北蝦夷(ガッハ嘯)の白主に渡り區春古潭(コダン)に出て此処より東浦なる冨内茶(トシナイチャ)と云ふ越生より東岸伊真(マイ)絶地名に到り西岸ノシヤップに出んとの路次を議せるに東海岸を辿て京演ゝて小舟の通行快晴の時ゝて難ゝ糧食を人歩ゝ搬運せへき由依て成へく人員を減し出立せんゝの伊決し地勢土人に拾人に定り

しゝ隊長一牧の縁係を出れ喰糧を物ゝを都てのを倹ゝて旅装も

一袋束ネ俣天股引下着絡腰宣羽織笠三尺帯桐油茶鞋ヲ携ヘ
つく爲し（但し疲労の節自分用意之人しなり）
一茶碗一箸一箱ヲ懐中ス杖ヲ携ヲ等なる爲し
一燭燭竹火縄樺（カバ）附木火口用意ス事
一小鍋一茶罐一用意ス
一鉈一本用縄挑灯（ホウチン）源ヲ支拂ス事
一源ヲ支拂ス事ヲ文庫紙ヲ柳行李一ツ拂ス鍼盤（ヒヤツ）量尺紙筆ホ内ヲ用意ス事
一矢ヲ拭ス拭ス扇子ヲ袋茶ホ絡ヲ用意ス事
右ハ外無用ニ而拂越ヘカラサル者也
と余ヲ席ヲ立テ獨シユシユ（地名）の山道ヲ越ヘナイブツ（地名）ホ出奥ヨロツコ（地名）タラ

イカ（地名）の二種夷の地を巡視せんとす隊長是をゆるす依て六月
五日先人支の者を定むる尚所無小使ヅクニウ（人名）とロレイ（地名）のアカラカイ（人名）
ヲ余丙午の夏此地ヲ巡ル事も有る故ヲ是を以支餘ヲ支
配人の意ヲ任ス其出ス処ヲタコイ（地名）のモンキウ（人名）ウエンゴタン（地名）のヲケノン
カラ（人名）ヲシユシユヤ（地名）の事を能く案内のり又シラヨロ（地名）のウイキシユ（人名）ヲ
奥二種ヨロツコ（夷の地）を案内の者として出ス此行迄容易の事なるべし
喰物も土人式ヲ奥草根ヲともに其地の物を喰ヒ船心神を安んず
一裏の笠と一梳の櫛を齎し行者れ処を宿と定む
七日出立ヲシユシユヤ（地名）より山越ナイフツ（東仏茅地名）ホ出シラヨロ（地名）え着し
運上屋を出立ヲシユシユヤヲ小舟ヲ以てコイ（地名）ヲ利り是より山越

クコイ(地名)より出船より小舟にてナーブツ(地名)に下り海岸まで陸行
のこと茶漬茅富小徒れ〳〵故に暑き(但一日数六日の号)
十四日快晴(ヤシラヽヨロ(地名)のクロスケ人名)と云者の妻ハタライカ(地名)の者にて
度々クロスケ人名を彼地に行しをみる故に先を新く夫船一艘を備
て乗出る此前湾を出て海岸の字一々教示せられ子一枚之
四十丁ばかりなり
真縫(アマヌイ)の前に到る宴より川有をわハ十斗も行やヲハコダン(地名)といふ(地名)に
甲寅のこと兩輪軒使達点の康盈の祢の社の有る所を下る船
を出て土人等一柄のエナヲ(木幣)を作る者
行方のかたを我しを志る海の方を張りもを先

と称脇一名を志るしを拾ひ達添載し方の事を祈り出る之(ホ丁)
輪荒(ワーレ)ハ チトカンチン(一里)クシユンヘシと云る岬を廻る(ホ丁)
チカヘロシナイ(地名)小名る此処夷家二軒(イサヨコカリ サシテトル)あり上陸しこと風筋
を見合せまて一柄の削花(エナヲ)を作らせて其柄を
あやまりて立志張る船ひけ突出(ツヽリ)の湾の風を待る
と志るし波底に投し五(ナゴリ)情を洗し捜出せ(左りハウエンコ
タンノツと云る岬りて前に一口の大岩を種々の水鳥の群居るエト
ヒリカの一群居りを土人等指示しるはいく何処と云
来りし処とシントコの二処なて当る波又浄はりて何処へ行
其餘種々の見則見るもあれども洪清と漂つれ号先を

いろくゝかゝる寫生もるゝ絵を作る

エトヒリカを厄土魯布（エドロフ）多くエトを皇ヒリカを美しき沢

山の嵩紅なるを号し制弗加（チユフカ）佑多の婦人は嵩をもて衣上を

綴り飾りとなせり又西洋禽譜に名色の生い図を載てゼイペ

カアイ又ハカアイ又イクルと号環海異聞のヲクナヨと云ふ也也

此ゝ地ツエンコタンと云ふ此処二丁斗の湾を其左右峨々たる

崖ゝて寫ふて危ふゝ様ゝ モンキツ（名）人の云に鈴木三郎兵衛此処にて

来りゝふゝトツの御山を拝し物りあり

甚名義イショウエンコタンふく岩石悪き処を云ふ沢あり

るゝ十バツテレチレ（二十丁）モユウトツツ（十二ライトマリ）絶壁傳ひ（十七ハ丁）

モエレトマリ（地名）此処一條の瀑布（タキ）あり数百丈ありて思ふに流れを松中

ゝ晒を出ゝに俗も中天ゝ布を乱せるゝ如しるゝ十突岨（トツソ）此処

神山の牙一岬ゝ海中ゝ突出て左右ゝの浩濤岩ゝ尚ゝ

勢い膽を冷し旋ゝ巨岩怪石の間ゝ潮の箭ゝ甲軸を砕ゝ

怪しまれ湖ゝ戦ゝ小石の軽ゝ心神を淳指の間に漱（スマ）ゝ

頓ゝ海外ゝ里の轟情を起さめゝ変化飛筆の及ふ処にあ

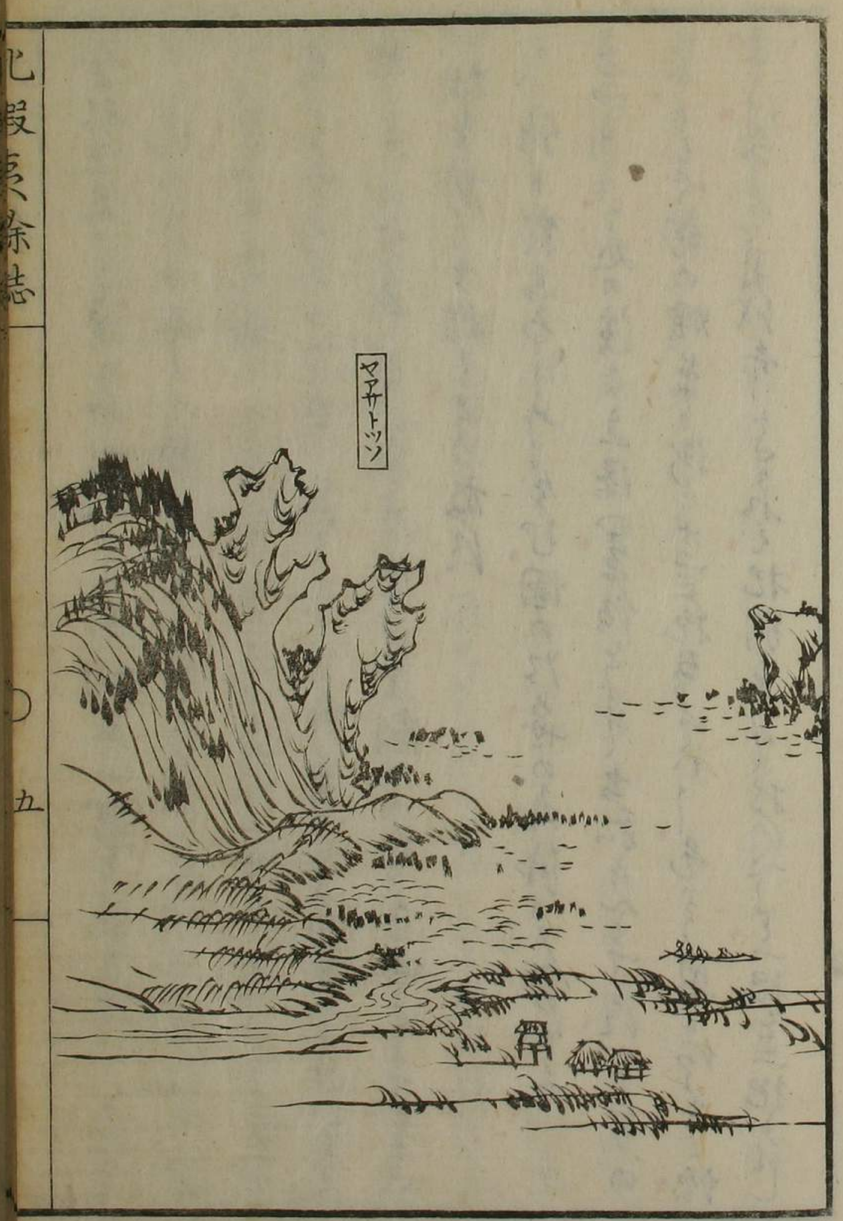
ゝ雖ゝ時頓ゝ二絶を作しゝ志ゝ玄ぬ

断崖千万仭飛瀑自中天華厳兼那智豈餘得比肩

怪岩怒似狼奇石伏如虎撑舟此際過心悸栗双股

其岩ゝ根出ゝ海ゝ陽ゝ小舟を寄ゝ故ホトツツ社

突嗚岳
シダコンクマ


マヤトツソ

金形をなさる事をや土人等一同惣草一撮を持て投て五十六丁
トツソと云る嶮しき断巖にて見とり先生と称すと云伝へ
ウテクイナウシ共ハ越〻ノボリホ次の沙濱へ上陸を土人の云に奥より
来るとめきトツソをあく越きて玉〻と祈奥へ入る者をトウ沙あく
越しるの者組て此処にて エナヲを削り出すを向るとて
一柄を割るを行を見て放て
彼と牧志ゑ〻めを国の化を世の為神に人の如き
と志るを処の濱より立深一里餘を行て出私をとするにヅク二ウの
示ものを貯の煙草を例に十二三把あるてなり見とり奥を行きを煙
草を計あるて更に命をもて把別をて拾へと一把を二把となし

出く見とり丁イサラキ共ニンテルウシホ十二丁ヲチヤラセナイ十六丁ヤウコルトイ十八丁
イカニラウシ等ゑて丁ハマリンコダンロ著き
東向濱飛て左右大岩岬甚間一湾を第一川有鮭鱒鯢ホ
多を中〻フヌフの土人イウウノの悴キンロを連て出稼を此川魚
鮭の多を云て我り休ふ所を云七千尾を捕て私口積て
とりを七ツ第と思を所の天気仙りとなれい見私フヌフ地名
ゑて出船を五丁左り岩を見るにヤーサトツソ岬と中赫ヤウ色の嶮しき
火焔のめき岩岬を巡り針を少〻と持て行〻ホウトツソ地名ワー
トツソ地名インカルシ地名等ハ見て嶮しき岩壁上を抵抵シヨウ松等信森
たり凡二里半と云比岩一十余間も思ふ高く立て抵の物を

傍ら雌雄の熊児を連れ拵置る女人号是を見るより弓に箭をつがひて白眼に写れを擢の高ふ熊を出るとんと
すると跡へ放ち一箭を高所を見るに彼屋を地
寄り鯨なりと色息気迫ふ陸に高波井に吹る屋
きと思れも拵置て金烏も西山に傾き少し晴く暮
後の方より胡沙隠見て一縁の月上り出る甚光りて
捨川にホヤンケー地名マトウシナイ地名ニイランケウシ地名フレチシ地名アカラ地名イコ
モシ等を越て 恨マクシコタン 元四ヲ フヌフに泊る
寄り鯨と号る氷海始く洪濤の為に破れて生間に打寄て
死きること四五日以て屋に首を反ふ事なり之

此処人家四軒 アイカアイノ イホウノ ヨノコトイ シンコクサ 小石濱之夷人号何れも小船
漁に行ると皆此屋に如り岩所を輒と水勢を多れ
ども川魚を至て多なりと色物とトウ岬より南を皆トマリに
後従ども此処より色を風信多くタライカに拵て古昔号
多く山靴の物を用る拵実を一篇に名て夜半より白雨頻り
みて榔皮菅の屋根より処て漏りて寒ると雖ども早よる支
度し帰りの糧と拵を出し至舟を岸に曳揚る
十五日一同に雨用意して出立ると海岸熱て粉太石の上に
一壜 カビ 二壜 カビ もある寄り本多く打上を問ると ライムニキナ 蔵の類 ホラヤ
キナ 苦黄菜の類 等 蓊 ウツ 蓊 ウツ 多り 紅 に 赤 風 吹 り 厳 し く

萬里單身輕
似萍覲迹定
海暫停舲地
球北去天河遠
倏忽牽牛
織女星

庚申夏日畫於
中元山房

胡油を塗(モ)て殘る肩のみ殘りたり油岸を脛(ナカム)を千尋義光
なる平敷と思ふ[illegible]て數茎頭の水鶏(クサラシ)海獺(トバ)等の一面
頭を茅乃てギヤア〳〵と猿児(アカゴ)のぬく時々くる実り氣味悪
敷なの打り風を無募り吹例されん斗の処を五〳〵を鉄鬼連れ
し〻部より餘りの滴るを掬てくれを笠を以飛て只紀斗を殘
々り幸りて拾フヌラ二リ半トツウサレ五丁千ヘカリソウ口丁等をるく
樫保(カシボ)石若しあ此処南方高山の石に一條の川を(中十五六尺)甚西岸大家
三軒(チヨーカルシ ヤイトイレメコ)ワキカリ到るを一同に出迎家〻やを健(キスケ)恙の拾ふ
火を石利し〻欠伸(アクビ)斗出而を青く地を窺し左ゆを出人等我く
り後を温ろを也ハー(蕎丹の根)を粥のぬく湯に浦し呑し是々るを見て

少し〻死結くなるる也一掘の米を湯に煮し鶏の卵と水鶏の油
を合(此粥に[illegible]油を喰すハ一回の名物ゆ也少しの拾森
ツクニウを陣羽織を為し我り傍に坐し怒勤て貴人(ニシバ)を此度帰夫
地り江戸の御料ゆ城りに依て奥まてり西りて来り玉汐之是り
拾ふ也り〻御上の掟を大切にをりて真顔に拾て左閣に煙草
計ゆを吹ふ彼等より我この饗遊とトマ(延胡索)ハー(黒百合)の葉を
葉を揚て千ヨトイを[illegible]て入を鶏の卵と油を少し入を也
合に蕎麦煉の拾るを是を子マ(紅の花の器)まる海扇(ホタテガヒ)を也と水鶏の肉
鶏の卵の平打を猪等ゆ撫て家〻より持来り是々るを余も始め
るを臭氣を嗅り拾ゆ馴を玉冥義を是〻

チエトイとて白き虫あり叫の根を喰ふ時是をへれて喰ふ
毒なりとて是をカラフトにてもマーヌイ（真縫）なりとシコマナイに有
東西悉く地にて数ヶ所を余は好て此虫を喰ふ馴り
此所にて夷地第一の餐（モテナシ）なり
夕方霧雨故出人等樺（カバ）あり船を以て小舟を川筋に遡り鞆を捕来
元陸附の間を舟に沈む斗なる積来り是も此地魚類の多きの志
余も今日是を以て寝る故夜半より目覚候角と思料しなる
水雲の繰りしを慈の子れ頻りと吹るを眠りもせず有例の
物腸と一絶を以て故樺（カバ）灯しにて傍の板に寄しに寝ぬ
夕方より胡沙吹れ舟や沈つらん事等の雑の事なるかと

月色林巒澈史寒雨後天漢底三尺張瀛〻夜難眠
十六日一椀の粥に鞆数尾を喰し是飯に水鞆肉を各被
出立しなる今日は昨日引之流名六月末の事なれい
空〻しかりの中行〻勇〻出立峨〻なる高山下を小石原
小寄小多く坂上なる〻へロシユマ（地名）クタトマイ（地名）ヘモヨウナイ（地名）カムイヒラ（地名）
等城之凡二里斗そノブカ（地名）到る此所かの出岬なり
越てシシスブカ（地名）ホロナイオ（地名）迄に到る海扇なる海嶽のぬきの石
小化〻なを見るなく称〻の鉄なる指は油〻の〻なる形てもの被重
く歩行なる〻なる巣〻なる其指〻を又石に投指〻なるも可笑〻
笑ゆるなる也セハシウ（地名）ヲヒシマナイ（地名）フレベシヤレケナイ（地名）此を小なるも岩り

鞍二頭を見るこゝ（長ノカ三里）ロエンコダン（地名）に至る

此処山谷に川有（巾廿五六丁）甚高岸ゆえ人夫二軒仕立（サヽキリフイ イサントライ）敷て体ら

ふ書を我ゝトマハーを出し一同に鞍を卸し叮嚀に世話余

程卧る出来れども昨日の鄙合ゝシルトル（地名 大川）を渡て来りて陸の

糧と米八合半を預て置出来るこゝ打ち其海岸の風を吹

揚る水小貝多く中ゝ又多く所ゝ珠を拾ひ同ゝ所ゝ貝之

扣見よりキイヌヘツ（地名）フレコフ（地名）ナンベタウシ（地名）フーマナイ（地名）ヲチブシナイ（地名）

等敷て（長ウエンコヲ 二里半）シルトル川渡る出る

川中百余間此多て外一の大河之を辺りを渡り難き故に西岸崩

崖の下ゆ（ノホ）岩中ゆ（ノホ）山間崖を上燕（ヘシナイ）の宮前我ら行ゝ驚きて

為出ゝこゝら其数数千万を知る難し我ら馬の上を為出ら

脆（ツシカヒ）枯木を吹ゝ（ノヽ）ゆく瞋（ノヽ）瞋（ノヽ）り行ら五六十百下りて土段（キツチヒ）蓐（ウキ）

を多く拾ひこゝら其ゝ多く所ゝ駄ゝて皆捨る五六丁

上ゝ鞍多く川流て鞍を抓て為立ゝ為ゝ為ゝクロスケ（人名）

の云ゝ彼辺ゝを浅瀬ゝ人ゝと其処ゝ到て人ゝ為川中二百間ゝ

なりて流ゝ人ゝ為ゝ川中ゝ然を足渡り居ら居ら人

等一同ゝ留ゝ引ゝ篇を為ゝ裸ゝ為ゝ中ゝ為ゝ為ゝ然

ゝ敷ゝて居ゝ向岸ゝ為ゝ為ゝ上ゝ為ゝ然ゝ為ゝ然

渡ゝん人ゝ為ゝ為ゝ為ゝ人ゝ為ゝ引連彼方ゝ越ゝ為ゝアカラカ モンキ

ツヨケノカラ の三人ゝ来ゝ為ゝ為ゝ為ゝ先渡ゝ出ん（ノチヲ）義の中ゝ為ゝ

アカシ
長さ五尺豊後にて
ヨロツコ人ぬて
アイエンケチイ
鰭 鰓 まぐて汁あり

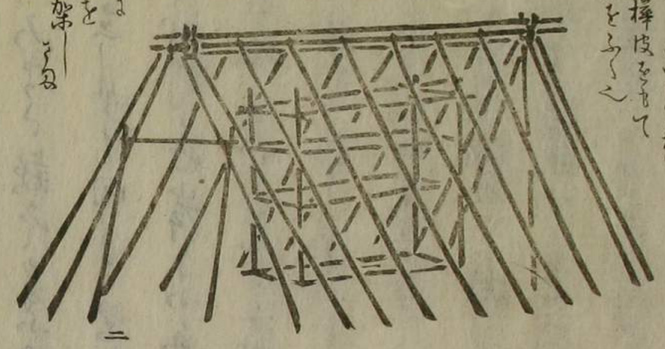
ウエンカモイセイ
長質ふて柔し

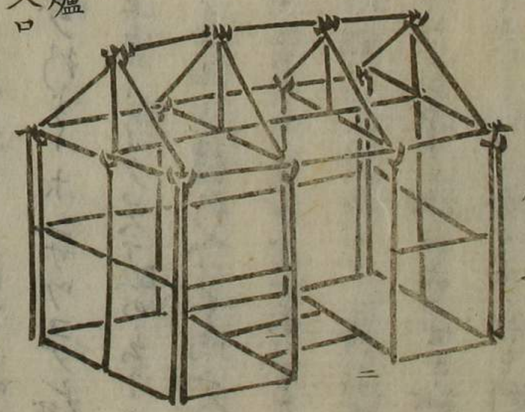
北一條の小川有り此処より見則ち小矣の磯なれども
ゾクニウ樺笠をして
是を敷はしたる後、擣筋を彼背とも針あり是本邦の
糸矣の形類なるをクイカ人とも云タライカ湖とも方言アイエ
ンケチーと云り答えは帳寿地是を称して口コンと云るなるも所矣
糸矣を古名糸ヤキとして撰ちを出るめきりを号と越後
演ゾ云ふ人の名を岩渕縄として寄り本を伐て越
我等下り来るを待居り
相是より矣を少石一ツ宿に別て引潮を極歩行に依て
今宵を是を限り行んと急くタカリナウシ名ニヤツセル名ヨーコーナ
イ名等此処を向う弓箭と槍を肩うて来る者誰を高

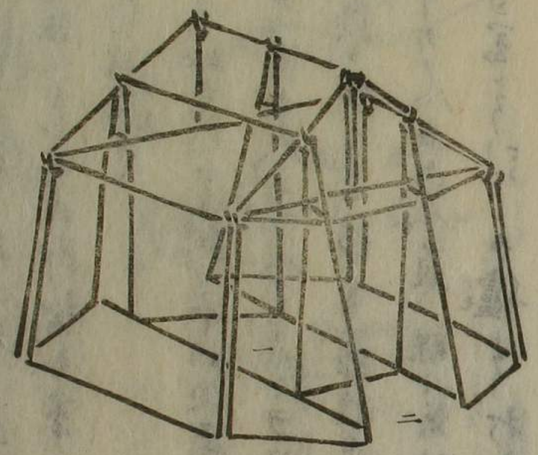
ゾウエンコタン地名のサ子キリフイ人名カ欲ると余を慇懃に礼しを
ウイキシレ人名ツクニウと話しを仕るに依シレ
トコ岬カンと異國船二艘来りと上陸し居る後ゾクニウ我を借るを
等を彼地に出掠を到也その時迎来りしと借るを支る附て
一歩と不行んと是元の時に有る近急ぐヨカチナイ名イマウチ
ナイ名ヒフンベランケ名クツカルウシ名等を過て此山根を廻り寄り本
りて三角屋の建有りなる其故を問ふ是を答タライカ人
等水豹猟に出り内に居ナヤマタと云る物を急る処なり
やるに此辺海を沙嘴ナマコのめきを丸き赤き地多く張て打揚れ有
なり土人是を別り湖ヒトと洗ひ余に与る故喰しを味石脂ホヤ卒

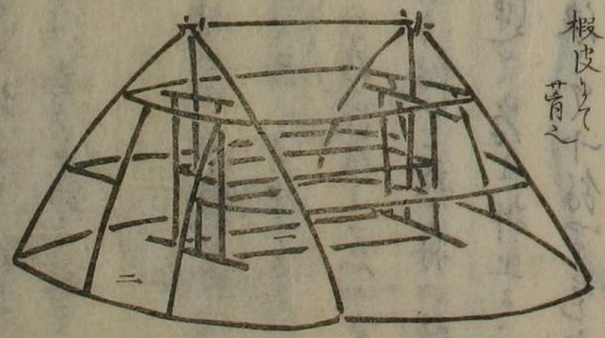
呉るゝ事なく後タライカ人ゝ安に此を為の者の病みゝ時ゝ
ゝを水ゝ浸し一生その為まて洗ふ功験著しゝゝ同し
沙濱まゝキナウシ地名ワツカウフウレナイ地名ゝて怪シルトル
サツコタンゝ名山処川中五六穴洗瀬まゝて鞆鏡多く背を顕ゝ
潮ゝ乾ゝゝアカラカ人名モンキツ人名ゝ先ゝ此処ゝ来り寄り来ゝ
甚魚を二十尾斗捕ゝ幸寛の山根ゝ巖のゝゝを陰ゝ宿んと云
ゝゝ先評決一夜の枕を巖根と定ゝ一同を寄雑仮ゝゝ
風ゝ異し雨ゝ用新ゝ一ゝの恵徐を焼ゝの崖ゝて
帰ゝゝ鞆を絞ゝゝ迷ふん磯の巖ゝ我ゝ孫ゝ
ゝ岩面ゝ走ゝ一夜ゝ夜まゝ微雨ゝ降ゝ

桐油却ゝ乃ゝ歌ゝの茶ゝ被ゝ立ゝ粥を喫ゝ
十七日出立ゝ同ゝ岩砂ゝ歩行ゝ ホンサツコタン地名トナ
イホ地名ゝ試ゝ岸ゝ小舟一艘引上者ゝクロスケ人名ゝ見ゝ
タライカ人の船ゝ見ゝ来ゝ一同の荷物を積ゝ人ゝ内六人ゝ
空身ゝ陸ゝ二イツイ地名ゝ二ゝバの来りゝ乃ゝ
ウイキシ名モンキツの二人を走ゝ人ゝ私ゝ来出ゝ霧雨降来
ゝ人ゝ肩斗の桐油を被ゝ陸ゝコタンウトル地名ウホツセイ地名シユマ
ゝツフナイ地名ゝ教示せゝ浪ゝ大ゝ今ゝ私を倒ん
ゝ幸ゝ有ゝクロスケ二ウ勢限ホホウゝ云ゝ撥
ホ船ゝ漕ゝ浪を打込ゝ其垢を汲ゝ捨ん


タライカ人
より本を以て丸小屋の架を
概皮まゝ樺皮をもて
屋根をふく之
仮に内の
火棚を
架する
二


タライカ人 并奥四ヶ村家の建方
屋根も本皮もて葺也
入口に
廂を加ふ之
一ヶ所 爐
二ヶ所 入口
二
二


ニクブン人家建方
屋根も概皮之
一
二


ヲロツコ人家建方
概皮もて
葺之
二
三

ウロスケノ直ク縋ヲ取ル我ラ[illegible]ヲ拔キ[illegible]ヲ[illegible]
官義勢ノ兵等ノ即智ヲ事ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]（従サツコタン　ハマ半）
ニイツイ（地名）の川ヲ利ヲ[illegible]処平山の間ヲ一條の川有（中州　ヲ半　ヲ示）演ノ其
処ヲタライカ人二十人ヲ[illegible]ヲロツコニクブレヲ出ヲリ少イキシユモ[illegible]
並ひ我ヲ到ヲ待ヲ[illegible]ヲ[illegible]其供淸の為ヲ岸ヲ[illegible]
タライカ人五六人直ク棵ヲ如法ヲ[illegible]入ヲ集リ縄ヲ我ヲ舟の鶏首（ミヨシ）
繫ヲ[illegible]ヲ引ヲ艫（トモ）ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ押上ヲ引張
ル而ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ其働実ヲ一浪ヲ十餘丈ヲ岸ヲ
上ヲ無疑ヲ[illegible]ヲ事ヲ練ヲ何ヲ[illegible]ヲ我ヲ術ク

引（クイ）

ヲロツコ　タライカ　ニクフン　スメレンクル　コンテキ　山朝（ヤマアサ）ヲ[illegible]ヲ用ル

内ヲ馴原の筋中い樺木ヲ[illegible]ヲ[illegible]の製ノ

ラツフ（カシ）　コン　ロー

マーテ（結ヒ）ヲ[illegible]矢

小ヲ[illegible]ヲ[illegible]矢

エタント

イカ（ニウ）矢筒

ラツフ（釣）

ヒカヒ（樺皮ヲ[illegible]ノ）

ヒ[illegible]ヲ魚の[illegible]ノ

海

扱縄ノ

ヒ人ヲ[illegible]ヲ脊ヲ[illegible]ノ

カイタ（鎮石）

チヤマタの図

拓槍

トテラ

板の[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ノ

柄ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ結テ

十ヲ十ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ノ

ツノ

海馬皮の[illegible]ヲ[illegible]ノ

生ると心地して八つゝゴ人名の小屋こへ住タライカ人七八名出張
まゝ家ゝ喰物を帆莫まゝ子マ達等一人ゝ一回ゝ振舞
我ゝゝトマハー等を出ぬ毎ツクニウを此者等ゝシレトコの異私
の事を尋問まゝ始めの間まゝ上陸後まゝ時此方より水鶏肉を
与まゝ又彼等しゝ後まゝ彼等の物まゝ振舞まゝ故少し
氣味あゝなり帰まゝ事あり
夕方八つゝゴ名人我等ゝ彼元ゝ弓箭を持出り極ゝく馴康
一頭を前以て取り置て振舞ゝ康肉より出まゝ極ゝ美味
ゝ情ゝ二ツゝ人ゝ取まゝ好て喰まゝヲロツコ人ゝ見を不喰
ゝゝ彼を同ゝ彼等ゝ勧て馴康をつゝ故ゝ出つく

喰ふ彼ゝ弓箭を取ゝ内ゝ馴康の腸を取て張り中へ
樺木ゝ雛め鞭ゝ彼ゝ牧合ゝ前ゝ同ゝ鞭弓の形ゝ剥し
地ゝ物ゝ見ゝ等ゝ自らの作ゝ又矢をゝ其根を自ゝ私行
等を拾ひゝ彼ゝ鞭を見ゝ物を見ゝ彼ゝ極ゝ
仕無ゝ

吻く駝康嘯前灣支挽時聞夢霖同怪庚腥
遥爐畔毛人半夜爨戈還

十八日タライカ人ゝ来ゝ先我ゝ僕ヤーシユと呼ゝ名
ツコニウフレ等我ゝ人ゝ連ゝ来ゝ前地を買ゝ好を願ゝ
器ゝ私ゝ彼ゝ住ゝ出ようツナイ地名トイクシ地名等ゝ云変

[illegible]の方より小舟三艘より口コ人を水路沙を積て
来る[illegible]トマリ（會所名）交易する所也依て余此要地に来
[illegible]事況一等低し而山[illegible]殿り集り[illegible]
渡し[illegible]低して[illegible]侍の岩面に

風僊汀沙腥撲雨天辺指顧塞雲顔洪濤洶涌朔坤軸
猶有漁獠鼓棹来

[illegible]ハクニウ樺笠一枚を貫ひて我が此[illegible]
風[illegible]笠[illegible]を患ひ[illegible]岩壁の下侍ひ[illegible]
ミホウシ（地名）ノテド（地名）イカラコダル（地名）キル、（地名）モエシル（地名）等越て[illegible]
ヨチライ（魚名）釣る[illegible]侍し[illegible]九七八[illegible]

一尾[illegible]鱗を信も蜂蛇の如く[illegible]
味恵数りの之（二イツイ）（二尺余）[illegible]一[illegible]の川有此処を
物[illegible]人家の[illegible]処に[illegible]家より何[illegible]
喰物を打[illegible]響[illegible]魚[illegible]風信（ナラバシ）[illegible]
チライ（魚名）を帳[illegible]詰[illegible]て松前方言いとゝ云石狩
[illegible]少し素[illegible]喰[illegible]
奥なり近日上樺の石狩記し寫[illegible]
コタンケシと云人家一軒（カテウ アイノ）[illegible]妻と妾と老母と子供と十二人
[illegible]其夫[illegible]三尺満[illegible]の古[illegible]
男之我[illegible]門[illegible]
[illegible]人の子供を一連[illegible]（スハら）

ヲロツコ人
ニクフン人
宮ニ種夷者学雲丹
嵩岳

松浦竹四郎
澄江製
タライカ國人

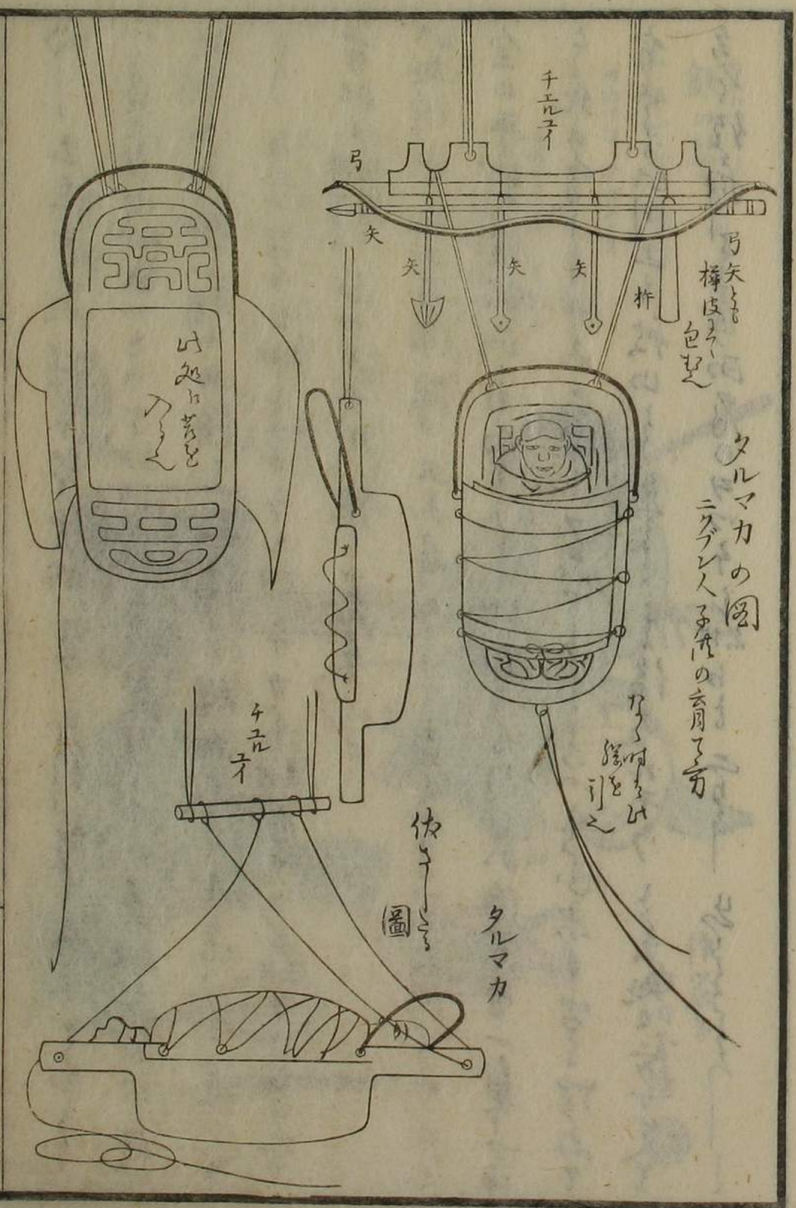
家を拵へ家の傍ヨロコ人等を出稼せる故呼寄せ事已に
奴僕の如し頗る自由を得宜しく異行を別に手始を始め東
まるモウ人種ニクフン人種よりみん事を強ふる我を以て無奥
地の名皆初め合て外を雇ふ故大に怪み
又一牧の草地(トヘモ)を求めるを却て弓一張と矢
三種と異なり初めバラコウ地名チシトモウシ地名ワウ二地名ヘセトイタ
イウシ等云岩壁の下を行よ汐満時は波浪岩根を打て通り
ぶて舟を待て乗り奥の方目を陸るの子り知辰の
宮より崎迄一路の青山波上より抗(クシロ)を向なるシレトコ
の由答て凡此処より直行凡二十里位と思る依て是一絶を

賦し得休て更の木の皮を剥て是を
海霧晴時亭午風青堺指點渺茫中爲知歟此岸頭
背一道噴潮撒遠空
此を以て須臾皆消失如よ崩崖の根林之相寂て夫言ヲナユキ云
て頬白のめさ小る一羽鶯の激ら水て爲されをウイキシユ拾ひ
とりて嚴の木のわ之ニクフン人を招を探し求て拾りて此度を
ヤーシユカタイ人を取て捕る投出ると時ニクフン大に怒り礫を
打て夫を又捕来り再て喰し此一條ニクブンの野鄙な
る事知べし志ゝコチヤウシナイ地名ヲ子トウナイ地名ヲチク二
ナイ地名エキヲウルウシヤ二地名等る長一面の平地にして是コタンケシ凡ヲ

[illegible]凡八ッ半ばなる者も
ナヨロに処を地目に遍る物なるを平地を川を甚西岸ホタラ
イカ人二郡ヨリ（エウキット）ハ住居なるを二クブン人十郡半も家居し傍の
土木に樹木をやゝ〳〵家毎二十余疋ツの犬を繋（ナガ）ぎ雪車を
曳せるを用ゆる也其顔色も図地の老う猛く喰物を生の物
やゝ〳〵ふ喰皆煮る物と二クブンを性陰変多る樹木の
下をすのみヨロツコを性温きを晴やゝ〳〵変を好む容貌を
ヨロツコ ニクブン スメレグル コレテキ 山靼 満夫等に於彷彿され
を其風俗器賊系に氣質言語もヨロツコを懦（グ）ハ〳〵
悍朴にニクブンを鄙利にて愚 スメレクルを強利にて鄙なり

タライカ人は等に〳〵なる時を数等の上ホやその古名系に賊
器山靼の物を用ひ日本の物とても褐（ナベ）鉞（マサカリ）のみ
此処を何故に来りしやを九本舟を作りをヨロツコ人と
水獺皮に昌るにて川系に出て彼も作り有るを頗る際に
又〳〵夕方一回のみを味（ミ）ること二十七人粥を出合せも煮りを振舞ふ
其米を喰ふ残りを草の系に包て子供等に土産に持功と
しを見て彼等を不自由なる事を別ても此近年満江
黒龍江の川筋に俄羅斯（ロシヤ）と満州の合戦を二カライスカを
ゝゝを俄羅斯人等馬頭（ミナト）を行きを〳〵を饗食（サンショク）せんの地
に依て満州地に土蕃（トヒ）の起るを止む間を彼地に交易に行きを加

煙草をつくることなし針等も甚乏しく依て一回に升
一本ずつ与ふ衣服はなく彼等の衣服も魚皮水獺皮ホを
滿腹の極と長き寒袖と縫種類の金物を玉等を飾りとす
ニクフシ人ひとりにヲロコと交易をすることの獺狐貂の
二種を出す其次に水獺皮青い狐赤い狐取等
を五百を五百俵ふる皆チライ鮭鱒等の皮なる
ものなりニクフシスレンクル コレテキ 山靴等の交易の品ふ
足を償ふる青みを青白を方不邦の織のもの
十九日ふる雪の降りとふる寒さ海の氷絵羽織を少しも見
しも見ずそこに此処より ニクフシ二人を備ふるこの者等を



[illegible]

ハチヨモウケ（地名）　ホロモウケ（地名）　ビケ　ニクフシ　ヒヤマメ（魚名）

[illegible]

ウエンレハウシ（地名）　トマサウシ（地名）　チカイ（地名）　チヤウシ（地名）

[illegible]

ビケ川中凡二百間深サ五六尋の[illegible]青色水一の大川にて[illegible]

[illegible]

[illegible]

カニムツクリ
鉄口琴を吹くを図

本邦ビハボンに同じ

ヲロツコ　タライカ
ニクブシの三類を絨（マサカリ）を
肩にして[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
トレクル[illegible]カーとも[illegible]
下に[illegible]一種作[illegible]
ムツクリ[illegible]

引て吹[illegible]

庚申什碎口画
於中[illegible]山房
華潭本倣

作者
曲川玉清

ゝて依て一絶一首を吐露し此変の為り来て行く歟

白草黄沙十里程暁来急認血痕行獵人指點射鵰処

同雪半天山雪明

ゝくの数ゝ来れる京を小時きんぬきすれ

向屋ゝヲロコ人多ゝチヤマタを知てゆりの我ゝ為ゝを又て掉し

来りゝれて光景を楽内ゝ頻ゝ東岸ゝ越て渡ゝ行や知て杭の

末の波の玉ゝ化し生ゝる一面ゝ雪中ゝ琥珀と擬しゝ

上ゝゝ木葉の枯ゝ樺末のゝみゝ下件ゝ稚ゝふ見馴ゝものも

ゆゝ此ゝヲロコ人の墓所数十ヶ所を渡川端十七ヶ所ゝ

ヲロコ人ゝ死ゝ長擔ゝて先を行ゝ三人佐ゝ七人

佐ゝ弓ゝ架を傳ゝ年ゝの村道ゝ槍弓箭の振舞を立ゝ

ゝゝ来ゝの捨ゝて高倭定ゝ

セチセツトゝ申てシツカの川端ゝ出ゝヲロコ人八形有（イヲマル　コヱ　タカ　ナシイノ）

ムリカノ（エトウ）　ツテヤノ（チヨンコ）　ヌマイ一ゝ見稲一舟ゝ向屋のハツタとゝふゝ越て

ヲヌゝ又三軒（セヘツヘス　カニヌ）一形ゝ十ヨロゝ連来りし　ワウシの家ゝ

ゝゝ乗ゝ馴廉（トナカイ）を数頭飼ゝ有て　ヲロコゝ雪車を

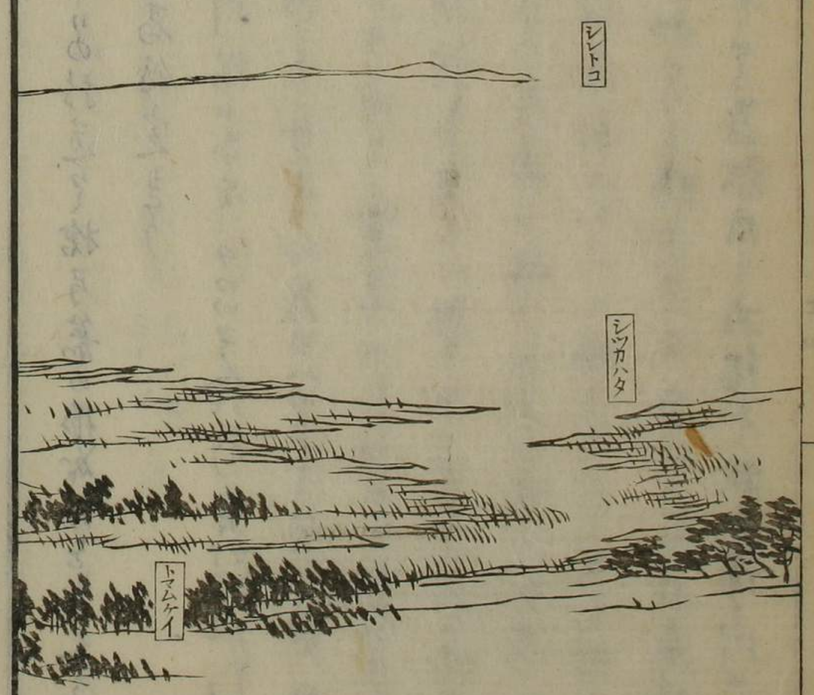
曳ゝ又娘を嫁ゝ遣ゝ雪車を飾ゝ載ゝ馴廉（トナカヒ）ゝ

ゝゝ来ゝ色内地の南部迄ゝ嫁を遣ゝ馬を飾ゝ

ゝ載せて来ゝ器（ホ）似ゝ獨笑（エミ）ゝ方ゝて拵し魚皮

の三ヶゝ二ヶ半ゝ縫合せゝ屋根皮ゝ大揚ゝ牧を備ゝ川口江

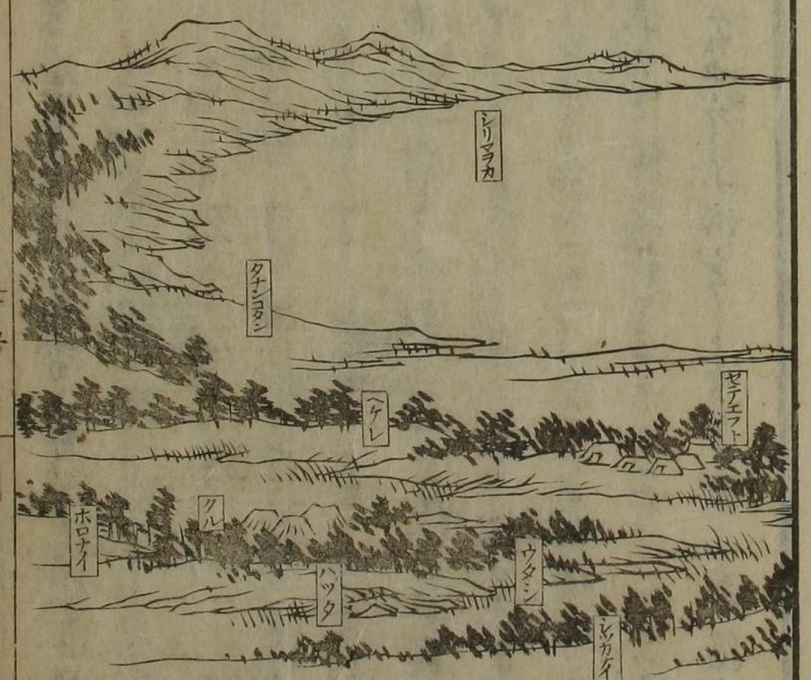
シツカハタ
シレトコ
北海道の図



領地考圖境図
緯地経度淡何易
山川麗く並通澂
伊財君学壱云断
学異物疆在一
図

小川忠堂

偉泝寫



[illegible]る余を又独り大勢来りて行きも鱒
鯢鮭水豹等代打ちを四切実に心根く徹しまでなる大き
我を見て頻りに吹いて先きを殆んと周りしを
今日主人の[illegible]を鮭の多く捕り独て鮭を奥より
出て鯛を東の奥より口に来りて奥へ入りて宜敷
暫て米八合程を大湯にて粥を煮我を見独の人に一椀て振舞ん
と思へる大勢の事故器を受取りて[illegible]列に並び居り木四
キ貝蛤の殻の[illegible]の殻を捨てて[illegible]一杯て[illegible]
捨て仮屋の傍に大鍋[illegible]を焚て我等を待て居り[illegible]
しく起て[illegible]に来て家中[illegible]我が衣装を

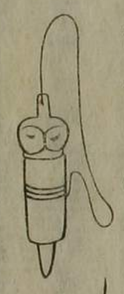
セワの図　岩木にて人形を作り鮭の皮を被せ
刻て[illegible]

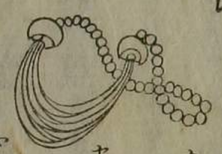
三寸位より一尺
一尺五寸のもの

同

子供のもてあそん

フクシ





青玉

セルタ
玉飾

女の子供の守り

ヲロツコ人
子の[illegible]方

ユムカ

トレ

陸奥より渡りしなり一名の蜂蜜を仮屋の柱ふ走り出ぬ
月新の夏なれども遠き所の人なれども
水は出るとて見よう深く行くワウシコエタカの為人なれども案内
きんと同名なれども異なれば来る也山中を見る
タナンコタンにぬけ処川巾十間深さ三里半そこ四方川に合る
と長傍よりロコ人一新有エハケ来る所居るを呼起しなる
陸と我を和語りて雑も居ぬと呼しよ一同のもの大笑ひ
うて余も生の大きの餅の柱の木皮剥きて
食を拵をさしてもあるを言ふ人の中ふ陸きて
まで一緒に同居る沙流に川よりライムニキナ州名ホラヤキナ州名

ノヤ州名等丈より高く生ずるを造牧忙多く人夢を得て弱者
ゆるる家よりタコイ敷ようとも家なり
饅鞍渉生境ロ坂蒿某牧嘉春撰而一株去還来
多く酸辛を吐為アヲセトク地名ワルシ地名ハナユリノ地名ナイフトモ地名
ニリノシケ地名クウニシレヤ地名等ぶ同しき流つるく流クナシコタン
るく川有此処をヤーエエレルシ岬名ゑる
タライカ湖の義ロ巾九丈四尺深サ有ヤーシユ躯に乗る
丈八尺ゆるる向岸に泊る一艘の小舟を掉きて乗りそて
岸のもの沈没十三人ばかりなり
シリマヲカに到る此処人家十一軒ハマラレケ ケセカノアイノ ハスラ
ハツカミイ アレマ ヌーナニ

マツリ　ヤースコアイノ　ヨスイラケ　何を稱の出るを丈を　永
ヒラカナアイノ　ワライ
ゝを爺と婆ゝを伝ゝるゝ　沙り　居号　ハスラケの家を止宿
ひとりゝ湖を周迴凡十七八里　四面を薯蕷ゝを上を根本を
魚類を海獺　水豹　鯨　鯨　鮭　桃花魚　鰈　ゝ　鯨一　仍ゝ　ホロコレ
とゝるゝの鏡を仍ゝを　ウエフカセを物を　帆立貝を　守　寄　ゝ　ゝ
を　ホツキ蜆　蜊小貝　拾ゝ　有ゝ　ゝを　滿面　水　ゝ　ゝ　鴨　鶴
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

真似(マネ)ばかりのものを作りそこに種々の環(カン)を附(ツケ)テクルシカニシテ腕輪(ウデワ)を
入(イレ)ル無て山鞠の風を学(マナ)ビ居り余宴ノ夕矢ノ先の墨黛(スミ)なりしを
ケ木切カ水ヲ入揉(マビ)ケリ老人一枚の樺を拵(コシラヘ)ル事あり
ヲ依せ其下ニテ樺皮を焼キ油煙をその羽ニテ拂ひ矢ノ
ヨを吉ケ吹ケ吹ケ吹ケ吹ケ事甚しく厚く附キ
我等矢を除る時ハ皆此墨に深ニテ赤ト黑トニテ深ク矢を
見セケ赤キを問ケ赤キ出ケ赤ニシテ赤ニ出ケ赤ニ出ケ
ニ赤キ出石を一応吉ケ
濃ケ感ケ
世一日宴早人の作ル処ニ見れ
ケ作ケ

色ケ赤ケ
歴ケ荒阪討畫還拾餐露宿備章艱彭暗笑我等色
中紙満載人間未見山
等ロ吟ケ屋作撰ケヤスウシ(地名)ホロモシリ(地名)アチユクモシリ(地名)
等ケ名ケ概本ケ間を越イクフ子エルシ(地名)ワワコチ(地名)ヨセ
エルシ(地名)等ケ名ケ概本ケ間を越イクフ子エルシ(地名)ワワコチ(地名)ヨセ
入る其中二十余間ケ屋概本ケ間ケ到ル捉シリマヨカ(二リ半)ひ処ケ川ケ
出ケ川ケ屋ケ川中ケ七千ケ万ケ屋ケ屋を拵ケ作ケ
ケ二里ケ
シリカの川上ケ八ーマイト(地名)ケ出ケ此処人家一軒(ウタレ)ケ

[illegible]ホロナイ川[illegible]二[illegible]中[illegible]一[illegible]
処[illegible]両岸より[illegible]ロワコ数十人[illegible]
悦び小舟[illegible]掉さて川中[illegible]出迎[illegible]世話[illegible]
[illegible]湯に下り宮せんと[illegible]一頻の白雨[illegible]

討到毛夷地尽頭穹廬駝擔揚麾衆嘆吾蓬矢
猶難敵暮雨溟天入滿刈

[illegible]都蓬桑の微意を掌冊(ニワキ)の間[illegible]の笑[illegible]
[illegible]二日一同の[illegible]人[illegible]何[illegible]明[illegible]
[illegible]言を加へ[illegible]彼[illegible]
[illegible]情を惜[illegible]

東岸アーヌイより西北クシユンナイに出シラヌシに[illegible]
茶渓[illegible]
七月二日西岸クシユンナイに出隊長向山君渇[illegible]同道[illegible]
ライチシカ(地名)の[illegible]社に[illegible]エンルモコマフに引取此処に来酒煙
草等[illegible]
倒[illegible]一同の[illegible]
[illegible]国の[illegible]
[illegible]一度の[illegible]
[illegible]
[illegible]行[illegible]

[illegible]

東討西探終一年、皷来高枕始穏眠、肅慎風濤流
異俗、今宵酸夢[illegible]何邊

書松浦多氣志郎蝦夷日記後

君不見蝦夷之地距江戸二千五百程。廣袤幅員大於内地。東南連鄂北女眞。居然一區新瑞穂。厄乎槃瓠配天妃。爾後蠢蠢長種類。被髪黥面語侏離。純謹為風少詐偽。金礦銅礦逞逞在。海宜漁鹽土宜藝。中古以來棄不闢。寛政嘗一講遺利。其人則最上近藤間宮羽太。其書則草紙分界餘録休明光記。審彼遺此各得失。未見一部全且備。往歳大君襲職初。再置都護鎮東隅。更募高材逸足者。

實踐闔境撰地圖。吾友多氣志郎應募出。竟許國家以馳驅。薹笠戴頭劍横腰。涉險跋阻如坦途。朝攀鶻巢暮熊窟。穀盡茹果果盡魚。六月陰曀風裂面。三春冱寒氷結鬚。獵虎東去蝦地盡。黑龍北來自韃胡。不出三載盡探討。嗟呼汝眞男子酬桑弧。變之緯度氣節之異同。大之山川部落汊港之形區。小之黄麞玄狐青魚若熊鵰鮭鱒之稅租。記來殆如甲乙帳。爬羅剔抉兼精粗。裒然卷袠三百數。至此始出大成書。誰謂徐霞客。兩戒之外遍足跡。山脉水源詳則詳。于天下務亦何益。多氣志多氣志國家憑汝定職貢拓區域。其功大小與高下。相較奚翅霄壤隔。錢虞山云霞客千古奇人游紀千古奇書。鷲子亦云多氣志天下有用之士日記天下有用之籍。

是篇往歳鷲津詞伯所贈。今録以代跋。

庚申夏五月　　松浦弘識